

K I N O P R E S S

# 木野通信

KYOTO SEIKA UNIVERSITY 第15号

Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community.

This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus events, personnel changes, student news, and perspectives on campus life.

1991年7月10日  
京都精華大学発行

京都精華大学 企画室  
京都市左京区岩倉木野町137  
TEL (075) 702-5201

## ●大学の名称は 変わるか

学長 ● 笠原芳光

「大学の名称を変えるという話がある」と聞きましたが、どういうことですか」

「ここ数年、教職員の間で精華という名前を変更したいという希望が多くなって、何度も教職員合同会議で話し合い、名称検討委員会をつくって考えてきました」

「なかなか難しいでしょうね」

「そこへ学生の間から事情をよく知らされていないのに、一方的に変更することには反対だ」という声があがって一月の学生大会では反対の決議をしたのです。それで大学としても学生の意向を無視して変更を強行することはしないと約束し、学生に対する説明が不十分であったことを反省して、学生全員に説明の文書を送り、さらに意見を聴く機会を九回開くことにしました」

「変えたいという理由は何ですか」

「いろいろあります。これは開学当初、諸般の事情から必ずしも自ら選んだ名前でなかったのです。それではいま『第二の開学』を標榜しているときに『自由自治』を理念として、美術学部と人文学部を有する大学にふさわしい新しい名称を考えたいのです」

「精華」というと女子大学と思われることが多いようですが」

「創立当初から共学なんですけどね。全国に精華という名の高校や短大がかなりありますが、そのほとんどが女子の学校です。そのためでしょうが」

「昔、『教育勅語』に『此レ国体ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦実ニ此ニ存ス』という言葉がありましたね」

「明治年間にはできた学校で精華という名前をつけたところは、その影響だと思います」

「若い人は昔のことはあまり関係がないと思うのかな。精華という言葉自体は真価とか精髓とかを表す語です。卒業生には愛着もあるでしょうね」

「創立から二十三年たつので卒業生は一人をこえています。いろんなところで活躍している話をよく聞きます。できれば卒業生の意見も聴きたいのですが」

「数年前に同窓会ができたのですが」

「同窓会の役員の人達には十分に理解してもらえようように話します。ともかく世間でも内容的には開かれた自由でユニークな大学という評価は高いのですが、名前がそれに伴わないという感じがです」

「これからどうなりますか」

「問題を白紙に戻して変更の是非を含めて教職員にも学生にも議論してもらいます」

「大学の名称変更は大学だけで決められるのですか」

「学校法人の寄付行為の変更が必要ですから最終的には法人理事会にかかれ、そして文部省の認可を得ることになります」

「なによりも大学の意志でしょうね。このころ名称を変えることが企業に目立ちますが、大学でもかなりあるのですか」

「昔もよく変わっているのです。たとえば、東京専門学校が早稲田大

学に、東京商科大学が一橋大学になつたことなどです。京都市立芸術大学も何度か改名しています。近年では幾徳工業大学が神奈川工科大学、城西商科大学が明海大学、橘女子大学が京都橘女子大学になるなど、たくさんあります」

「名前を変えるにしても、それが新生や向上につながらなければならぬでしょう」

「ところでこの大学でもこれから十八歳人口が減少するので対策に懸命のようですね」

「大学間の競争は激烈になり、定員に満たない大学、閉鎖を余儀なくされる大学も出てくるでしょう。そうならないために教学内容を充実し、研究を盛んにし、また真にたのしい学生生活を送れる大学にしなければなりません」

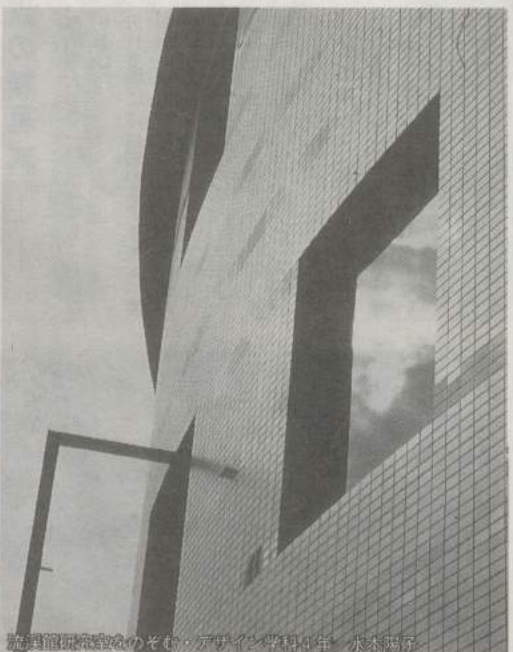
「設備も大切ですよ」

「狭い建物とか、必要なのにまだない施設があります。三年後完成をめどに近く工事を始めることになっています。資金がたりないので寮生の理解を得て、将来、寮を売却することも考えています」

「たいへんですね」

「この間、ある学生がこんなよい大学が成り立たないはずはないから、がんばってほしいと言ってくれました」

「教員・職員・学生との関係がこれほど親密な大学は少ないから、さらに充実発展するよう願っています」



京都精華大前駅ワタシ風景。デザイン学科4年 斎藤昌美

流麗な建築のその。デザイン学科4年 水木陽子



# 三つの誓い

小さな短期大学として出発したこの大学を、ようやく美術・人文の二学部をもつユニヴァーシティとすることができた。創立以来二十余年、教職員、学生、卒業生の、協力一致、悪戦苦闘の結果である。

初代学長岡本清二先生は、この大学が設立されたとき（一九六八年）、教職員と学生とはいつかの誓いを立てたと宣言された。

曰く

その第一は、自由自治主義の旗のもとに、人格平等主義の研究教育集団としての大学をつくるということであった。しかしはじめはこの教職員の間、そして教職員の完全平等制に対して、いくらかの違和感があった。しかしそれも数年にして自然に克服され、この平等制こそが、学生が人格的に尊重されることの基礎条件であることが理解された。この人格的平等主義の実践は、人種的、民族的、社会的差別を認めない思想を、学問・研究の出発点となし得ることの保障であると考えられてきた。

その誓いの第二は、学生を処罰しないということであった。われわれの大学の学則にも、国家の指示にしたがって、処罰規定はある。しかしそれは行われていない。処罰は、教職員自身の選んだ学生に対して、生涯にわたる恥辱を与えることになるからである。

第三は、大学のキャンパスを、巷の雑踏のごときものにしてはならないということであった。かつてある巨大大学の学生数が二万に達したとき、ゼミ、クラブの仲間を除いて、何人かいる学生の顔を覚えているか、と尋ねるに答は二百名程度、ということであった。その大学の二万の学生をどうしようになったときの、同じ質問に対する答えは、はるかに百名以下、六十七十名。

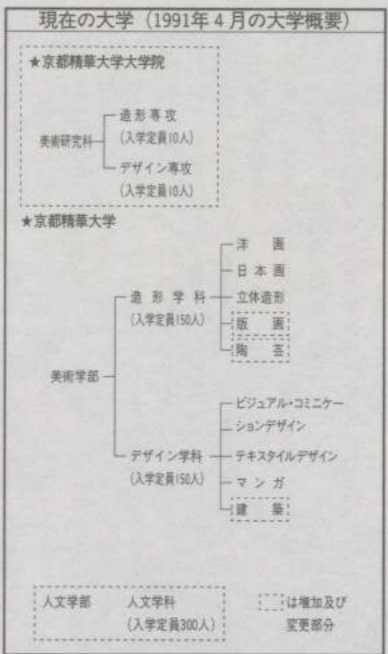
これは学生は良き友人に出会うことは困難である。そして大学教育の質の低下、教員間の知的交流の稀薄化、学問的意欲の減退が、徐々に進行する。これが恐ろしいのである。そして大学のこの状況は、結局、社会の「倫理的」共通感覚（コモンス・センス）の、相対的低下につながっていく。

他大学が巨額を投じて壮大な体育館をつくり、また華麗なホールを建てているとき、われわれには、その

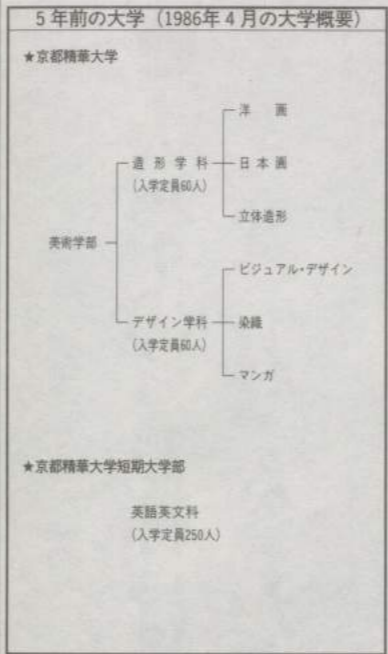
大学は常にヨーロッパの初期時代の大学や、あの求道心に似た情熱をもって結ばれていた緒方洪庵の遺業のアンビションを、今後も自分たちのものとしても持ちつづけたいと願っている。

だがこの計画の実現には、学生寮の処分という哀しい決断があるのである。

施設が整備されたとしても、われわれは常にヨーロッパの初期時代の大学や、あの求道心に似た情熱をもって結ばれていた緒方洪庵の遺業のアンビションを、今後も自分たちのものとしても持ちつづけたいと願っている。



## 京都精華大学5年間の推移 (1986) ~ (1991)



## 待望の大学院 美術研究科入学式

待望の大学院（美術研究科）が本年度から開設されることになり、去る四月二十六日に第一期の入学式が本学流漢館でおこなわれました。学部時代とは異なり、自らの課題の研究に動かし、後輩のよき目標になつてもらいたい、という等原芳光学長の式辞に続き、斎藤博研究科長の祝辞がありました。第一期生となります大学院生は造形専攻が三名で、デザイン専攻が二名となっています。デザイン専攻の学生が少ないのは、大学院の設置認可日が遅く、広報もほとんど出来ず、入学試験の実施ということになりましたのでやむをえないことだと思います。関西の美術系の私立大学で大学院を設置しているのは本学が初めてです。いかに本学の美術学部のスタッフ及び施設が充実しているかということですが、本学の美術学部長の大学院設置の名に共感し、入学試験の準備がトップに位置することになりました。第一期生の諸君の一層の精進が期待されることとす。

## 今井憲一氏遺作 大学へ寄贈される

油絵など千点の贈呈式

一九八八年十一月八日逝去された今井憲一氏（独立美術協会）の遺族より、このたび油絵二八五点、素描約九〇〇点が本学に寄贈されました。五月二日、贈呈式が行われ、遺族の今井柳子さんを迎え、笠原芳光学長が目録を受け取りました。また本学名誉教授で洋画家の芝田耕氏より、今井氏の人格を偲んだお話も伺うことができました。今井先生は京都洋画界の重鎮であり、今年一月には京都市美術館で遺作展が開かれました。その後、本学購買部の画室堂のご尽力もあり、今井憲一全作品目録を企画製作のうえ、京

都精華大学で一括保存することにしました。

当日会場には初期のリアリズム、後期のシュールレアリスム的な作品が並べられました。

「今井先生は本学の直接の教授ではありませんが、短大開設の頃、教員のことやまた美術教育をどうおこなつたらいいか相談にのっていたことがあった。故伊谷賢藏先生を通して貴重なご教示を戴いた。大学の発足にあたって無くてはならない人であったと思います。」（学長挨拶）

現在は設備が不十分であるが、将来は本学で公開できる施設を作る予定です。



今井氏の作品を前に歓談

## 学生演劇集団 日本全国公演 アンテイオーク大学

人文学部では、海外で授業を行う「ワールド・ワーク」がよい今年から始まります。今年前半には、本学学生が海外センターでお世話になるより、足先に、アメリカのアンテイオーク大学から学生がやってきます。演劇および日本語を専攻とする十二人の学生です。

皆さんの記憶にも新しいと思いますが、四月十一日には風光館前で、広場を多様に使った仮面劇が上演されました。各新聞には「姉妹校米園

アンテイオーク大学歓迎イベント催される」と報道されました。アメリカを初め、アジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界各地の彼らの公演は高い評価を受けています。巨大な仮面（パペット）ひとつとっても造形的に極めて美しく、更に日本の能狂言、歌舞伎の様式的な動きを取り入れるなど、芸術的にも高度な水準らしい演劇集団です。十二人の学生は、指導教員A・トランベターさんとともにこの後、八月末まで滞在

パペット国際旅団として日本全国を公演旅行する予定です。この公演には本学学生も加わります。

公演で予定されている作品は、クラウゼヴィッツの「戦争論」を、数々にわたって「War / Kai Von Clausewitz」ファウストをモチーフにした「Faint and Other David Corder」などで、いずれも戦争という人類にとって大きな問題を扱ったものです。湾岸戦争に対する批判など、時事的な斬り口を随所にちりばめながら、戦争の本質、あるいは戦争と人間の関係に迫ろうとするのです。彼らは今、京都にホームステイしながら朝早く登校しています。流漢館前で柔軟体操（？）する姿を見た人も多はず。コトバの壁があるのは事実ですが、この機会に学生同志、大いに交流を深めてはどうかでしょう。九月には、本学から二十人の学生が、アンテイオーク大学へ向けて出発する予定です。

## 就職ニユース

（人文学部）（美術学部）

①今春、就職希望者種アଙ୍କケートをとりました。人気があったのは「マスコミ」「旅行」「公務」「商社」「小売」関係でした。今年から三名の企業経営者を含めた就職顧問が、これらの業種を含めた諸企業の人事部を訪問しています。就職開拓のために本学のイメージアップ、および本学学生のアピールに懸命です。

②採否を判断するのに面接を重視している企業が増えています。面接時に必ず問われるのが、「あなたは学生時代に何をしましたか。」

この問いに自信を持って答えられる「何か」をぜひ作ってください。

①好景気を反映して求人企業数が増えています。今年の卒業生には、今までの実績の無かった企業へ就職する例が見られました。また、今年度は昨年より一ヶ月ほど就職活動のスケジュールが早くなっているようです。

②人気業種研究会や、企業への電話のかけ方といった実践講座的な説明会を行いました。（五月）

皆さんの現状に即した企画を今後も実行して行きます。

●就職課では皆さんのいろいろな相談にのります。気軽に声をかけてください。

## 人文学部 新入生歓迎キャンプ報告

学生諸君が行った協力援護は、非常に好ましいものであり、彼等の「新入生を仲間として迎えよう」という意気込みには感動を覚えました。

現地に到着後、日程は予定通りに消化されていきました。三日午後の「スポーツ広場」から夜の「お祭り広場」にかけては大いに盛り上がり、新入生同志の交流や、新入生と教職員、在学生との交流も一層深まってくれ、学生諸君の協力のもとに数々のイベントが準備されました。主なイベントとしては、①グループ別ミーティング ②パネルディスカッション ③本学教授陣による講演会 ④スポーツ広場 ⑤お祭り広場 ⑥ディベートコンテストが計画されました。イベントを円滑にすすめるために在

現在、授業が始まって約一ヶ月が経過したわけですが、各授業担当の先生方から、新入生が明るく活気があるといふ声が多く聞かれます。課外活動（クラブ・同好会・サークル）への参加も活発であり、キャンパス実行委員会としても大成功とはいえないまでも中成功ではなかったかと考えています。キャンパスに協力いただいた新入生の皆さんにも感謝いたします。今後とも活気ある人文学部を創り上げるために、皆さんのご理解協力をお願い致します。



「ファウストと悪魔の契約」——風光館前で



アセンブリー講演会

1990年11月15日

関係というものは、言葉と物と性... 3つの交換物の周辺にしか起こらない... 日本は、だからアメリカの言っている、日本のわからなさ、という

石川好氏

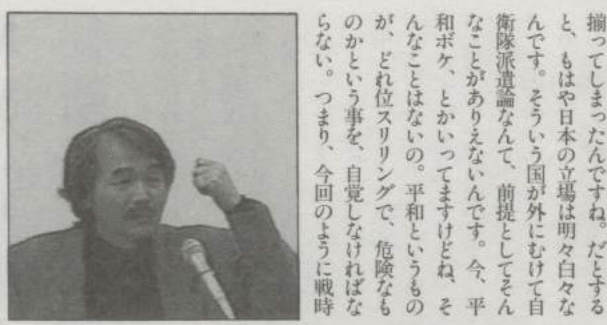
『ストップ・ザ・ジャパニーズ』を巡って... 戦時の4つの機能を全く欠いたまま、自覚的にこれから生きていく

大熱演で超満員!! 司会・上野千鶴子氏... 日本とアメリカでは、戦時機能というものをなくしてしまっ

でいる国と、どっちが経済戦争で勝つか、決まっています... 戦時機能を持って、現実的に今、問われている

というものを、どういう語法で、言葉化して外に伝えていけるか... 戦後の日本が初めて所有したもの

か、僕らの経験に前例のない場所にきてはいるはずなんです... 世界で今、日本が一番面白い



壁は崩れる (版画) 教授 長岡 国人... 激動を続けるベルリンに住んで二四年間、世界は今や確実に変化



平野に乱を (人文学部) 教授 末石富太郎... 五・一五十年後に控えた大地上、地球の危機を回避する道は

事務局新顔です。よろしく!... 正直いって貧弱な施設の大学であるが明窓館前を通り過ぎる学生

ラグビーと絵本と

一九九〇年四月一日、夜、薄暗い明りの中で、僕はワールドの中に立っていた... 一年間のラグビー人生



京都府留学生弁論大会 最優秀賞 李殷 贊さん... 三月二十五日京都府主催の第一回留学生スピーチコンテスト

玉井司さん

また、デザインを学ぶのも、ラグビーを知るのも初めてのことで... 二年間で精華を卒業した後

とはまだいえませんが、仕事の絵を描いているときも、自分の作りたい絵を描いているときも... 幸せな気持ち

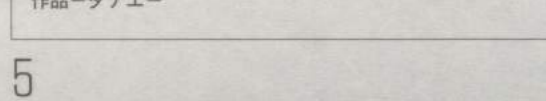
同一窓一會一通一信

木野会会長 赤坂博... 大学の全面的な支援により、卒業生も発刊されました

総会 懇親会 11月3日(日) 京都精華大学内「木野会」宛... 卒業生名簿等のお問合せ

Table with financial data: 収入の部 (Income) and 収支の部 (Expenditure) for the association.

現代朝日クラフト展入選!! (陶芸専攻四年生) 平木志乃さん... 「誰もいなければ触れてみたい」



作品-ダナー



# 一九九二年度入試に向けて

## ●人文学部

## 地方入試を実施

京都精華大学の入学志願者数は、一年度も大幅な増加をみました。全体では五、四六一名で前年度より一、二七一名、三〇・三%増です。

人文学部では初めて導入された公募推薦入試が、一、三三名の志願者を集め、まずは順調なスタートを切りました。美術学部も推薦、一般入試ともに前年度の二・五倍以上の志願者が集まり、一時は試験会場が足りなくなるのでは、と心配されたほどでした。(別表参照)

また、昨年度からの傾向である近畿圏外の受験生の増加も今年はさらに進み、東京、神奈川、千葉、山梨、福岡、石川等で志願者が倍増、他にも広島で五六名も増加するなど、全国的知名度もかなり高くなってきているように思われます。このように順調な伸びを見ている本学の志願者動向ですが、これはここ数年の全体的な大学志願者増加の影響も大きく、その絶対数は依然として満足いくものではないと見られます。将来的な展望を考えると全国的な知名度のさらなる向上、より幅の広い受験生層の開拓など、課題はたくさん残されています。一九九二年度入試にもいくつかの改革が加えられています。

まず、人文学部では従来の公募推薦入試、一般入試に加え、一般二次入試という形で地方試験を実施します。東京、名古屋、金沢、広島で三月三日に行われます。また美術学部では公募推薦入試における従来の推薦基準(評定三・〇以上、一浪まで)を廃止、出身高等学校の推薦書があれば、評定値、卒業年度にかかわらず受験が可能になりました。これも美術の分野での才能を幅広い層から開拓しようというものです。一九九二年度入試でも様々な個性と才能をもった受験生が様々な場所から多数本学を受験してくれることを期待しています。



入試風景(美術学部)

学部	試験の種類	学科	試験日	出願期間	合格発表	入学手続締切
美術	公募推薦入試	デザイン	12月11日 12日	11月18日～12月3日	12月19日	12月31日
		造形	12月13日 14日			
	一般入試	デザイン	2月15日 16日	1月24日～2月7日	2月23日	3月2日
		造形	2月17日～ 19日			
人文	公募推薦入試	人文	11月23日	11月5日～11月15日	11月27日	12月6日
	一般一次入試	人文	2月11日	1月20日～2月3日	2月15日	2月24日
	一般二次(地方)入試	人文	3月3日	2月17日～2月27日	3月7日	3月13日

### 人文学部(推薦・一般)

学部学科	入学定員	志願者			受験者			合格者		
		推薦	一般	合計	推薦	一般	合計	推薦	一般	合計
人文学部	300人	1,333	1,415	2,548	1,072	1,306	2,378	201	277	478

### 美術学部(推薦・一般)

学部学科	入学定員	志願者			受験者			合格者		
		推薦	一般	合計	推薦	一般	合計	推薦	一般	合計
造形	150人	651	474	1,125	617	441	1,058	114	81	195
デザイン	150人	946	658	1,604	884	596	1,480	110	75	185
合計	300人	1,597	1,132	2,733	1,501	1,037	2,538	224	156	380

## 貸借対照表

1991年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(8,497,666)	(8,640,537)	(△142,871)
有形固定資産	(7,661,302)	(7,796,214)	(△134,912)
土地	1,856,362	1,856,362	0
建物	3,749,598	3,898,393	△148,795
構築物	921,959	990,540	△68,581
建設仮勘定	77,575	25,000	52,575
教育研究用機器備品	654,943	656,747	△1,804
その他の機器備品	6,610	5,490	1,120
図書	393,652	362,799	30,853
車両	603	883	△280
その他の固定資産	( 836,363)	( 844,323)	( △7,966)
電話加入権	1,872	1,797	75
有価証券	2,000	3,151	△1,151
長期貸付金	231,090	210,801	20,289
退職給付引当特定資産	43,544	43,544	0
減価償却引当特定資産	407,857	435,030	△27,173
繰上償却引当特定資産	0	0	0
資産取得引当特定資産	0	0	0
第3号基本金引当特定資産	150,000	150,000	0
流動資産	(1,314,478)	(1,037,542)	( 276,936)
現金預金	1,120,848	716,393	404,455
未収入金	24,107	56,205	△32,098
短期貸付金	4,057	1,409	2,648
有価証券	153,122	251,603	△98,481
立替	1,014	961	53
前払金	11,240	10,895	345
販売用金品	0	0	0
保証	90	75	15
内部勘定	447	(△1,272)	1,719
資産の部合計	9,812,591	9,676,807	135,784
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	(3,258,008)	(3,450,795)	(△192,787)
長期借入金	3,111,374	3,376,560	△265,186
退職給付引当金	146,634	74,235	72,399
流動負債	(1,046,070)	( 902,238)	( 143,832)
短期借入金	265,186	265,186	0
未払入金	36,449	34,933	1,516
前受金	702,417	563,670	138,747
預り金	42,018	38,449	3,569
負債の部合計	4,304,078	4,353,033	△48,955
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	5,825,942	5,420,909	405,033
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金(特定基本金)	150,000	150,000	0
第4号基本金	167,000	130,000	37,000
基本金の部合計	6,142,942	5,700,909	442,033
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	634,429	377,135	257,994
消費収支差額の部合計	△634,429	△377,135	△257,994
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計			
	9,812,591	9,676,807	135,784

### 1991(平成3)年度資金収支予算書

1991年4月1日から  
1992年3月31日まで  
(単位:千円)

収入の部	
科目	金額
学生納入金収入	2,694,754
手数料収入	210,560
寄付金収入	43,000
補助金収入	200,000
資産運用収入	51,500
資産売却収入	200,000
事業収入	2,400
雑収入	4,000
借入金収入	0
前受金収入	586,200
その他の収入	64,350
資金収入調整勘定	△712,417
内部勘定収入	447
前年度繰越支払資金	1,120,848
収入の部合計	4,465,642
支出の部	
科目	金額
人件費支出	1,543,500
教育研究費支出	449,241
管理経費支出	228,986
借入金等利息支出	203,877
借入金等返済支出	265,186
施設関係支出	111,500
設備関係支出	88,500
資産運用支出	200,000
その他の支出	413,848
分担金支出	10,000
(予備費)	[ 30,000]
資金支出調整勘定	△41,240
次年度繰越支払資金	962,244
支出の部合計	4,465,642

### 1990(平成2)年度資金収支計算表

1990年4月1日から  
1991年3月31日まで  
(単位:千円)

収入の部	
科目	金額
学生納入金収入	2,207,335
手数料収入	193,627
寄付金収入	33,390
補助金収入	209,989
資産運用収入	65,668
資産売却収入	770,238
事業収入	3,924
雑収入	35,241
借入金収入	0
前受金収入	702,417
その他の収入	1,906,229
資金収入調整勘定	△588,020
内部勘定収入	△2,902
前年度繰越支払資金	716,393
収入の部合計	6,253,529
支出の部	
科目	金額
人件費支出	1,405,966
教育研究費支出	393,236
管理経費支出	199,893
借入金等利息支出	210,482
借入金等返済支出	265,186
施設関係支出	57,575
設備関係支出	83,776
資産運用支出	1,684,589
その他の支出	872,390
分担金支出	8,116
資金支出調整勘定	△47,344
内部勘定支出	△1,184
次年度繰越支払資金	1,120,848
支出の部合計	6,253,529

### 一九九二年度入試日程

### 一九九一年度入試結果

# 京都精華大学

## 一九九〇年度決算 ● 一九九一年度予算